

今回のインタビューは、広島市安芸消防署長の園田春男さんをお願いしました。園田署長には、就任に当たっての抱負や意気込み、地域住民の目線に立った消防行政の取組みについて熱く語っていただきました。

聞き手／宮坂二郎 委員長



化学防護服を着用した毒劇物災害対応訓練の様子

地域住民の目線に立った

消防行政の取組みに向けて

広島市安芸消防署長

その
だ
は
る
お
園田 春男さん

安芸消防署長に就任されての抱負・意気込みなどをお聞かせください。

前 海田地区消防組合には、平成十一年から二年間出向し

てお世話になっていましたので、周りにはたくさん知人が居られ、親密感もあって地域へは比較的溶け込みやすい思いがあります。このような縁を活かしながら、二年目を迎えた新たな意気込みで、地域住民の目線に立つて、消防行政の向上に取り組みでいきたいと思っています。

昨年四月の委託から一年半が経過しましたが、署内の雰囲気はいかがですか。

当 初は、業務とか職員の間に若干の違和感や戸惑いがあったと聞いています。ですが、今は広島市の職員としての自覚を持ち、仕事や職員間などの協調も図られていて、活発で明るい雰囲気職場になっていますね。

消防事務を委託する理由の一つとして、消防力の強化が掲げられていましたが、具体的な事例を教えてください。

昨 年の六月中旬に発生した、安芸区阿戸町、海田町大立町・稲荷町、南区青崎での連続放火による建物災害では、それぞれの地区へ周辺消防署から多くの消防車両が出動して早期の対応ができました。また、今年の四月には、坂駅のホームから転落して列車の下敷きになった人の救命救助事案で、現地への素早い医師派遣とヘリコプターによる搬送などができたことは、委託の効果が顕著な事例だったと考えています。

最近では、全国的に見ると災害・救急のみならず、地震や水害などによる救助出動も多いようですが。

最 近は、さまざまな災害が多く、予測しづらい

災害もたくさん発生しています。身近なものとして、二時間に百ミリを超える局地的な集中豪雨による被害や、硫化水素ガスによる救急事案の多発。さらに今後は細菌や放射性物質等のテロなども想定されます。さまざまな有事に備え、素早く、的確に対処できるよう、訓練、教養等を通して災害対応能力を養うように日々努めています。

広島市消防局では、今年四月から大規模災害や特殊災害に対応するため、高度な専門知識、技能を備えた職員で編成した特別高度救助隊、名づけて「ハイパレスキューひろしま」を充足させ、特殊災害等に備えています。

住宅用火災警報機の設置が義務付けられ、その期限が近づいてきました。



住 宅火災によって亡くなられる方の増加により、消防法が改正され、住宅に「住宅用火災警報器」の設置が義務付けられています。すでに新築住宅では、平成十八年六月一日から設置されています。

既存の住宅については、三年後の平成二十三年五月三十一日までに設置が必要ですが、大切な家族の命を守るためにも、早めに設置されることをお勧めします。

日頃からの備えが、いざという時の素早い対応につながっているんですね。安心・安全で、住みよい町となることは町民の願いです。議会としても今まで以上の協力をしていきます。本日はお忙しいところ本当にありがとうございました。